東北６県と整備局が創る
河川・ダム・砂防・海岸・水道・下水道
事業の新たな連携
「個性の大地」

第６４号（令和７年１月）
東北地方整備局河川部
地域河川課 発行

挨　　拶

地域河川課長　渡辺 敏彦



令和6年4月1日付けで地域河川課長で参りました渡辺と申します。
東北6県及び仙台市の皆様におかれましては、国土交通行政の推進にご支援とご協力を賜り心から御礼申し上げます。

昨年は令和6年能登半島地震、梅雨前線や線状降水帯の発生により秋田、山形両県において水災害による甚大な被害が発生しております。犠牲となられた方々のご冥福と被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて、国土強靱化の推進については、激甚化・頻発化する水災害に対応するため、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策等の予算により河道掘削や築堤、ダムの建設、砂防施設や海岸保全施設等の整備を実施し被害軽減に取り組んでおりますが、昨年も全国で氾濫危険水位を超過する河川が多発し、東北地方もそのひとつですが、各地で氾濫等による甚大な被害が発生しているため、より一層、計画的かつ総合的な防災・減災、国土強靱化を進める必要があります。

昨今の流域治水の加速化・深化については、気候変動の影響により2℃上昇した場合、洪水の発生頻度は約2倍と示され、河川管理者による堤防整備等の治水対策、下水道の雨水排水・貯留浸透機能の強化、土砂・洪水氾濫対策、海水面の上昇を考慮した海岸保全施設の整備など、事前防災対策を強力に推進することが不可欠です。さらに、利水ダム等の事前放流や農業分野とも連携した田んぼダム等の取り組みによる貯留・遊水機能の向上、また浸水区域からの居住誘導などの「流域治水」を進め、現状では「流域治水プロジェクト2.0」として気候変動を踏まえて重点的に実施する治水対策の見直しを順次行っており、流域治水の加速化・深化に取り組むことが肝要です。加えて、流域治水の実効性を確保するための法的枠組みとして流域治水関連法が令和3年11月に施行され、引き続き、特定都市河川の取り組みを進めるとともに、気候変動の影響を取り入れた海岸保全基本計画の変更等の取り組みも必要です。なお、流域治水の機運醸成の取り組みも重要であり、各地域において、過去の災害の教訓や今後の備えに対する理解を深めて頂くなど、水害リスクの自分事化を図り、地域防災力向上への取り組みも大事です。

一方、流域総合水管理の推進については、気候変動の影響が深刻化するスピードに追いつくためには適応策である流域治水のみでは十分ではなく、二酸化炭素排出量を削減し降雨量の増大を少しでも抑制する取り組みが重要であるとともに、水を巡る課題は多様化・複雑化しているため、治水・利水・環境の一体的な取り組みとして「水災害の被害の最小化」「水の恵みの最大化」などを実現するため「流域総合水管理」の推進が必要です。

今後とも、より良いコミュニケーションを図るため、また各県及び仙台市のご要望に可能な限り応えられるよう、微力ではありますが邁進する所存です。皆様のご負担と極力ならないよう、効率的かつ効果的な業務遂行に努めて参りますので、今までと同様にご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

目次

トピックス(整備局)

・各県水道・下水道部局の洪水対応演習への参加・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2
・令和６年度　多自然川づくり研修会及び地方ブロック担当者会議を開催・・・ P 3
・ダム工事総括管理技術者会（ＣＭＥＤ会）との意見交換会・・・・・・・・・・ P 4
・令和６年度　河川・ダム管理技術検討会について・・・・・・・・・・・・・・ P 5

トピックス(各県・仙台市)

令和6年　災害対応状況

・秋田県：令和６年７月出水等の被害・復興状況について・・・・・・・・・・・ P 6
・山形県：令和６年７月25日からの大雨による被害状況と
復旧・復興に向けた取組みについて・・・・・・・・ P 8
・岩手県：令和６年台風第５号洪水における
滝ダムの事前放流及び洪水調節について・・・・・・・・・・ P 10

令和6年度における防災の取り組み

・青森県：令和６年度における出水等の防災体制について・・・・・・・・・・・ P 11
・宮城県：洪水予警報等作成システムの習熟訓練・・・・・・・・・・・・・・・ P 13
・福島県：福島県水防訓練６年ぶりの開催及び土砂災害防災訓練について・・・ P 14
・仙台市：水災害に備えた対応について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 15

下水道事業について

・秋田県：秋田県秋田臨海処理センターエネルギー供給拠点化事業について・・ P 17

若手職員の紹介

・青森県：・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 19
・岩手県：・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 19
・宮城県：・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 20
・秋田県：・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 20
・山形県：・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 21
・福島県：・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 22
・仙台市：・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 23

地域河川課出向者だより

・下水道係長　寺田＿下水道行政について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 24

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 24

トピックス

整備局より　各県水道･下水道部局の洪水対応演習への参加

令和6年4月より水道整備・管理行政が国土交通省に移管されたことを踏まえ、整備局河川部へ水道係が新設され、また下水道係が建政部より移管されました。
移管後初の試みとして、5月に実施した洪水対応演習についてご紹介させていただきます。

○国土交通省東北地方整備局で毎年本格的な出水期を前に実施している洪水対応演習に、管内６県の水道部局、下水道部局が参加して実施しました。
○演習は、県管理河川で実施する洪水演習のシナリオにあわせて、水道・下水道の被害想定とその情報伝達を実施しました。



伝達演習に用いた位置図などの例

【演　習　取　組　状　況　写　真】



洪水対応演習のようす（福島県）



洪水対応演習のようす（宮城県）

○これらは、さっそく、7月の秋田・山形豪雨やその後の台風５号・10号による施設被害時の情報伝達に活かされました。
（被災例）河川出水により水管橋の流出、道路橋添架管の流出
河川からの原水取水施設、内水被害による下水道浄化設備の浸水
○なお、復旧に関しては道路部局や河川部局も交えた連絡調整会議を開催し、早期の復旧に向け調整を行いました。

○引き続き、河川行政と上下水道行政との連携に向け、さらなる取組を実施してまいります。

トピックス

整備局より　令和6年度　多自然川づくり研修会及び地方ブロック担当者会議を開催

多自然川づくりに関する技術力の向上及び技術者の交流に資することを目的として、「多自然川づくり地方ブロック担当者会議（発表会）」は平成14年度より、「多自然川づくり研修会」は平成24年度より開催してきたところです。

「働き方改革」等の趣旨を踏まえ、より一層の業務効率化や事務の軽減等を図るため、令和5年度からは研修会及び担当者会議（発表会）を兼ねて同日開催にて実施し、令和6年度は東北地方整備局にてWeb会議との併用にて開催しました。

最優秀賞、優秀賞に選ばれた3題（下表、参照）については、令和6年12月9日～10日に埼玉県さいたま市で開催された「令和6年度　全国多自然川づくり会議」に推薦され、東北地方ブロック代表として発表頂きました。

ご多忙の中、会議に参加頂いた発表者・関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。

■開催概要

日　時：令和6年11月7日（木）11:00～16:00
場　所：東北地方整備局　水災害予報センター（WEB併用）
参加者：国・県・仙台市の河川担当者　約120名が出席
内　容：【第１部】多自然川づくり研修会
講話：『多自然川づくり等の推進に向けた最近の動き』
国土交通省水管理・国土保全局　河川環境課　課長補佐
【第２部】多自然川づくり地方ブロック担当者会議
直轄河川関係事務所、県・仙台市から計11題の発表

■受賞者一覧

【最優秀賞】

論題	発表者		河川名
北上川汽水域における盤下げ試験施工について	北上川下流河川事務所　工務課　技官	ナカムラ　キョウタ 中村　恭太	キタカミガワ　キタカミガワ 北上川水系　北上川

【優秀賞】

論題	発表者		河川名
岩木川の河道掘削事業における環境への配慮	青森河川国道事務所　流域治水課　技官	キムラ　ヨシキ 木村　覚輝	イワキガワ　イワキガワ 岩木川水系　岩木川
人と自然と景観の調和をもう一度！ 多自然川づくりに取組んだ河川における維持管理について	岩手県　県土整備部　河川課　技師	タノウエ　ショウゴ 田上　翔吾	ヨネシロガワ　ヤガミガワ 米代川水系　矢神川

【奨励賞】

論題	発表者		河川名
梅田川における魚道整備と市民活動の紹介について	仙台市　建設局下水道建設部　河川課　技師	タカハシ　ヒサユキ 髙橋　永幸	ナナキタガワ　ウメダガワ 七北田川水系梅田川
「石の魚道」による五戸川の落差解消	青森県　県土整備部　河川砂防課　技師	ミカミ　アキラ 三上　輝	ゴノヘガワ　ゴノヘガワ 五戸川水系　五戸川

■開催状況


▲研修会の様子


▲担当者会議（発表会）の様子

トピックス

整備局より　ダム工事総括管理技術者会（CMED会）との意見交換会

東北地方整備局では、ダム建設工事における働き方改革やダム積算基準改定などの様々な情勢を踏まえ、今後のダム工事の円滑，適正な実施を図ることを目的に「ダム工事総括管理技術者会（ＣＭＥＤ会）」との意見交換会を開催しております。

令和６年度は、補助建設ダム発注者の立場として、青森県（駒込ダム建設）及び宮城県（川内沢ダム建設）も出席し、各ダム建設事業に関する概要説明のほか、下記議題に関する意見交換にご参加いただきました。

【開催概要】

開催日：令和６年１１月１１日（月）
場　所：東北地方整備局　大会議室
出席者：東北地方整備局　河川部長、河川情報管理官、河川計画課、地域河川課、河川工事課
　　青森県　河川砂防課、宮城県　河川課
　　ダム工事総括管理技術者会

【主な議題】

・ダム工事におけるECI方式適用について
・ダム建設の担い手となる若手技術者の育成について
・時間外労働上限規制について
・土日閉所による完全週休二日制の実現について


意見交換状況


ダム事業紹介

両県におかれましては、多忙のなかご出席いただき、ありがとうございました。

【補助ダム建設事業の紹介】

■駒込（こまごめ）ダム（二級河川堤川水系　駒込川）
　○場所：青森県青森市大字駒込
　○形式：重力式コンクリートダム
　　堤高８４．５ｍ、堤頂長２９０．１ｍ
　○目的：洪水調節、流水の正常な機能維持、発電
　○ダム本体工工事：平成３１年度～

■川内沢（かわうちさわ）ダム（一級河川名取川水系　川内沢川）
　○場所：宮城県名取市愛島笠島
　○形式：重力式コンクリートダム
　　堤高３９．７ｍ、堤頂長１４５．０ｍ
　○目的：洪水調節、流水の正常な機能維持
　○ダム本体工事：令和４年度～



トピックス

整備局より　令和6年度　河川・ダム管理技術検討会について

令和６年１２月１７日（火）に、河川・ダムの管理業務（危機管理も含む）に携わる国土交通省、東北６県、仙台市職員を対象に、管理業務における技術的な課題や取組事例等を発表し、意見交換を実施する検討会を開催しました。

令和６年度は発表された２６題から４題が最優秀賞、３題が優秀賞に選ばれました。
発表された各県職員の皆様、聴講された皆様、お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

最後に、各県、仙台市には検討会で発表された論題について、組織内の河川・ダムの管理業務に携わる職員の皆様に共有いただき、今後の管理業務にお役立てください。



検討会の様子

令和6年度　河川・ダム管理技術検討会の受賞者一覧（最優秀賞4名、優秀賞3名）

No.	テーマ	発表論題	発表者	
最優秀賞				
1	危機管理対応（災害・事故等）	令和6年度台風第5号洪水の対応について	岩手県　県土整備部 河川課　技師	タケダ　ユウナ 武田　悠夏
15	河川・ダム管理	七ヶ宿ダム電源設備の故障対応について	七ヶ宿ダム管理所 電気通信係長	ミヤカワ　トシキ 宮川　俊希
17	河川・ダム管理	平成29年度豪雨被災3河川における河川改良復旧事業の効果検証について	秋田県　仙北地域振興局 建設部　企画・建設課 副主幹	ヤマシタ　サトシ 山下　智
18	河川・ダム管理	オギによる樹木再繁茂抑制対策について	酒田河川国道事務所 流域治水課　流域調整係長	サワ　ハヤト 澤　隼斗
優秀賞				
10	河川・ダム管理	「A!RiverⅡプロジェクト」の取組による多自然川づくりへのアプローチ	青森県　県土整備部 河川砂防課　技師	フジイ　カズマ 藤井　一磨
23	占用・地域連携	岩木川ダム統合管理事務所における広報活動について	岩木川ダム統合管理事務所 調査課　技官	カワムラ　ヒロキ 川村　大樹
25	管理の効率化・コスト縮減・新技術	高瀬川における占用許可の平準化の取組みについて	高瀬川河川事務所 工務課　管理第一係長	カキザキ　ヨシノリ 柿崎　良典

※発表番号順

トピックス　令和6年　災害対応状況

秋田県　令和６年７月出水等の被害・復興状況について

1. 令和6年7月出水の被害

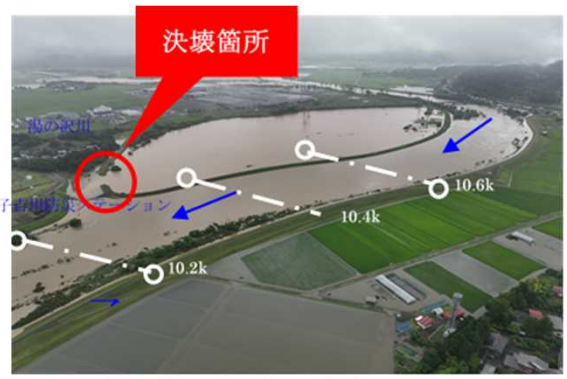
（１）出水の概要

秋田県では、７月２４日から前線や暖かく湿った空気の影響により雷を伴った非常に激しい雨が断続的に続きました。特に子吉川水系の雨量観測所において３箇所で既往最高雨量を観測し、東由利雨量観測所では１時間に６０㎜を超える強い雨となり、大清水雨量観測所における総雨量は５５６㎜を観測しました。子吉川及び支川石沢川では、計画高水位を超過し、堤防決壊や堤防越水などにより浸水被害が発生するなど、甚大な被害が発生しました。





決壊箇所（子吉川右岸10.4k）平常時



決壊箇所（子吉川右岸10.4k）

2. 復興に向けての取り組み

（１）秋田県子吉川堤防調査委員会の設立

今回の災害を受け、特に被害の大きかった子吉川及び支川石沢川において、堤防決壊の原因を究明するとともに、復旧対策等に関して東北地方整備局及び秋田県に対し学識者の委員の方々から指導・助言を頂きました。

（２）子吉川圏域流域治水協議会　水災害対策プロジェクトの策定

子吉川圏域流域治水協議会では、令和１０年度までのプロジェクトとして、令和６年７月と同規模の洪水に対し、由利本荘市中心市街地の治水安全度を保持しながら子吉川中流域における浸水被害の軽減を図ることを目標とした、あらゆる関係者が協働して集中的に治水対策を行う「水災害対策プロジェクト」を策定しました。

「子吉川圏域　水災害対策プロジェクト」※１１月末時点



トピックス

山形県　令和6年7月25日からの大雨による被害状況と復旧・復興に向けた取組みについて

1.被害状況

本県では、７月25日から26日にかけて、大雨特別警報が最上地域及び庄内地域の７市町村に発令され、記録的短時間大雨情報も２市町で発表されるなど、これまで経験をしたことのない大雨に見舞われました。
令和６年11月20日現在、公共土木施設関係の被害額は県と市町村あわせて約755億円にのぼっています。このうち、河川では1,126箇所で約495億円、砂防では66箇所で約21億円、上下水道等では22箇所で約51.4億円の被害となっています。



2.復旧・復興に向けた取組み

令和６年11月29日に開催された、国土交通省、県及び市町村等からなる県内各水系合同の流域治水協議会において、新たに２つの「緊急治水対策プロジェクト」が策定、公表され、復旧・復興に向けた取組みがスタートしています。
また、７月出水による災害に係る令和６年災害査定は、９月から15週間連続で行われ、12月20日に予定通り全て終了しました。

（１）最上川下流・中流緊急治水対策プロジェクト
最上川では、７月の大雨により戸沢村蔵岡地区等で越水し、酒田市では氾濫危険水位を超え、堤防決壊の恐れがありました。また、支川も含めた多くの箇所で、堤防や護岸の損壊、土砂や流木の堆積、氾濫による浸水被害が発生したことから、最上川としては令和２年度、令和４年度に続いて、３つ目となるプロジェクトとなる緊急治水プロジェクトが策定されました。
このプロジェクトでは、国土交通省において、今年７月と同規模の洪水に対して、堤防からの越水による浸水被害を防止するため、最上川の河道掘削により水位低下を図るほか、最上川の堤防強化、鮭川等の災害復旧を行うこととしています。また、こうした緊急的・集中的な対策に加えて、気候変動による更なる降雨量の増大に対応するため、最上川の河川整備計画の見直しを図ることとしています。
県においては、堤防が決壊した新庄市の新田川等の復旧や土砂浚渫、氾濫した京田川において対策を実施するための河川整備計画の策定等を盛り込んでいます。
さらに、治山や砂防事業、戸沢村蔵岡の集団移転、水害リスク情報の充実や住民参加型の防災訓練の実施等が盛り込まれました。
事業費は、令和６年度から11年度までの６年間で、国土交通省が約450億円程度、県が約200億円程度、合わせて約650億円程度と見込んでおり、国や県、市町村が連携し、着実な復旧・復興に向け取組みを推進してまいります。

（２）日向川水系・月光川水系緊急治水対策プロジェクト
庄内地域の酒田市及び遊佐町を流れる二級河川日向川水系及び月光川水系では、酒田市を流れる荒瀬川の氾濫や内水による浸水被害が発生したことから、二級水系としては全国で２例目となる緊急治水対策プロジェクトが策定されました。
このプロジェクトでは、甚大な溢水被害が発生した荒瀬川の改良復旧に伴う河道掘削に加え、月光川の築堤・河道掘削、その他の河川における災害復旧や土砂浚渫、治山・砂防事業、さらには酒田市の田んぼダムや遊佐町吹浦の内水対策等を盛り込んでいます。
事業費は、令和６年度から10年度までの５年間で、約160億円程度を見込んでおり、県では、酒田市及び遊佐町等と連携し、着実な復旧・復興に向け取組みを推進してまいります。

。

「最上川下流・中流緊急治水対策プロジェクト」令和６年 12 月 18 日始動!!!

最上川下流・中流　緊急治水対策プロジェクト

～流域のあらゆる関係者が一体となった、安全で安心が確保できる治水対策の推進～

○ 最上川及び支川鮭川では、令和6年7月25日からの大雨により、約60kmにわたって計画高水位を超過し、堤防越水などにより甚大な被害が発生したことを踏まえ、国、県、沿川市町村等が連携し、河川整備及び災害復旧等を集中的に実施するとともに、あらゆる関係者が連携した流域治水を推進し、令和6年7月と同規模の洪水に対して、堤防からの越水による浸水被害を防止する。

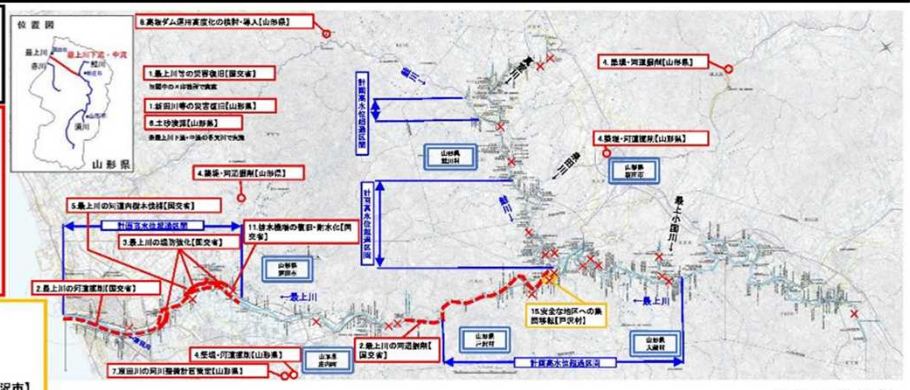
○ また、気候変動による更なる降雨量の増大に対応するため、河川整備計画の見直しを図る。

■事業期間　令和6年度 ～ 令和11年度
■事 業 費　国：約450億円程度、県：約200億円程度
※県事業費は災害復旧費等を計上
■目　　標　令和6年7月と同規模の洪水に対して堤防からの越水による浸水被害を防止する。

■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
○河川区域での対策
1～8は右図参照
9.流域内の洪水調節機能の向上に向けた可能性検討【国交省】
10.砂防堰堤の整備【国交省】
11.排水機場の復旧・耐水化【国交省】
○集水域での対策
12.北沢地区の災害復旧【林野庁】
13.砂防堰堤等の整備【山形県】
14.森林整備、治山対策、水田貯留（田んぼダム）【林野庁・農水省・山形県・市町村】

■被害対象を減少させるための対策
○氾濫域での対策
15.安全な地区への集団移転【戸沢村】
16.災害リスクを考慮した立地適正化計画の作成及び居住誘導【山形県、市町村】
17.営対策と連携した氾濫被害の軽減（高床住宅）【尾花沢市】

■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
○氾濫域での対策
18.水害リスク情報の充実と普及【国交省・山形県・市町村】
19.住民参加型による防災訓練の実施【国交省・山形県・市町村】
20.要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進【市町村】
21.講習会等によるマイ・タイムライン普及促進【国交省・山形県・市町村】
22.早期復旧・復興のための拠点づくり【大蔵村、学・民】





【国】最上川3.0k付近（出水の状況）



【国】最上川44.3k付近（出水の状況）



【国】最上川44.3k付近（堤防欠損状況）



具体的な対策内容については、今後の調査・検討により変更となる場合があります。

「日向川水系・月光川水系緊急治水対策プロジェクト」令和７年１月 16 日始動!!!

日向川水系・月光川水系　緊急治水対策プロジェクト

～あらゆる関係者と連携した地域復旧復興のための治水対策の推進～

○二級水系である日向川水系及び月光川水系では、令和6年7月25日からの大雨により甚大な被害を受けたことを踏まえ、激甚化・頻発化する災害に対して浸水被害の軽減を図るため次の対策を実施する。
➢山形県（河川）は、荒瀬川の河道掘削、施設復旧や土砂浚渫を集中的に実施するとともに、継続中の事業についても進度を加速化し浸水被害を軽減する。
➢山形県（砂防）は、土石流などが発生した渓流において、砂防堰堤等の施設を整備し、本川への土砂・流木の流出を軽減する。

■事業期間　令和6年度～令和10年度
■事 業 費　約160億円
※県が行うハード対策に係る事業費を計上
■目　　標　令和6年7月と同規模の洪水に対して、越水・溢水による浸水被害を防止する。
なお、今後、激甚化・頻発化する災害に対しても氾濫による浸水被害を軽減する。

■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
○河川区域での対策
1 荒瀬川の河川整備計画策定【山形県・河川】
2 荒瀬川の河道掘削【山形県・河川】
3 施設復旧【山形県・河川】
4 土砂浚渫【山形県・河川】
5 継続事業（築堤・河道掘削、貯砂ダム整備）の加速化【山形県・河川】
○集水域での対策
6 砂防堰堤の整備、土砂・洪水氾濫対策検討【山形県・砂防】
7 治山施設の整備【林野庁、山形県・森林】
8 雨水排水施設の整備【遊佐町】
9 田んぼダムの推進【酒田市】

■被害対象を減少させるための対策
○氾濫域での対策
10 災害リスクを考慮した立地適正化計画の作成及び居住誘導【山形県、酒田市】

■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
○氾濫域での対策
11 水害リスク情報の充実と普及【山形県、酒田市、遊佐町】
12 早期復旧・復興のための拠点づくり【学・民】

■本プロジェクトと連携して進める事業
○地域の復旧復興のためのライフライン事業
・道路施設の復旧【山形県、酒田市、遊佐町】
・農地、農業施設の復旧【酒田市、遊佐町】
・水道、下水道施設の復旧【酒田市】



出典：地理院地図に加筆
※具体的な対策内容やスケジュールについては、今後の調査・検討等により変更となる場合があります。



トピックス

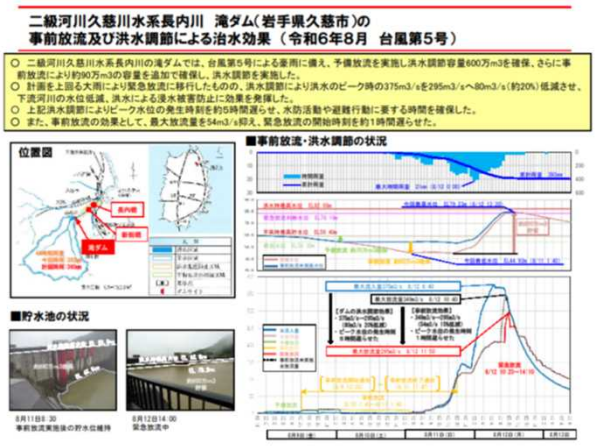
岩手県　令和6年台風第5号洪水における滝ダムの事前放流及び洪水調節について

令和６年８月に岩手県の太平洋側に上陸した台風第５号において、岩手県初の事前放流を実施しました。岩手県では、滝ダムにおける事前放流及び洪水調節の効果についてとりまとめております。

【掲載ＵＲＬ】

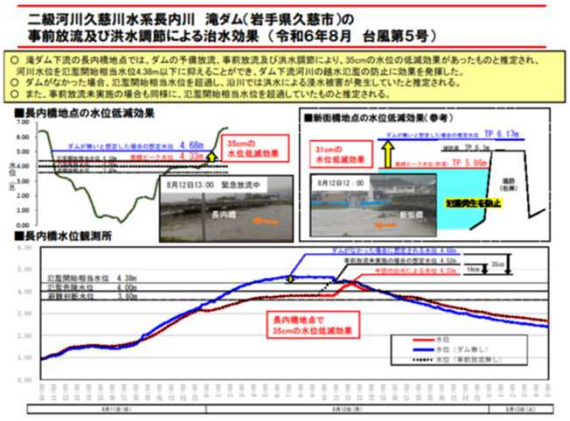
https://www.pref.iwate.jp/kendozukuri/kasensabou/dam/1009973.html

【洪水調節効果資料より抜粋】



【事前放流及び洪水調節の治水効果】

- 二級河川久慈川水系長内川の滝ダムでは、台風第５号による豪雨に備え、予備放流を実施し洪水調節容量600万m3を確保、さらに事前放流により約90万m3の容量を追加で確保し、洪水調節を実施しました。
- 計画を上回る大雨により緊急放流に移行したものの、洪水調節により洪水のピーク時の375m3/sを295m3/sへ80m3/s（約20%）低減させ、下流河川の水位低減、洪水による浸水被害防止に効果を発揮しました。
- 上記洪水調節によりピーク水位の発生時刻を約５時間遅らせ、水防活動や避難行動に要する時間を確保しました。
- また、事前放流の効果として、最大放流量を54m3/s抑え、緊急放流の開始時刻を約１時間遅らせました。



【下流河道の水位低減効果】

- 滝ダム下流の長内橋地点では、ダムの予備放流、事前放流及び洪水調節により、35cmの水位の低減効果があったものと推定され、河川水位を氾濫開始相当水位4.38m以下に抑えることができ、ダム下流河川の越水氾濫の防止に効果を発揮しました。
- ダムがなかった場合、氾濫開始相当水位を超過し、沿川では洪水による浸水被害が発生していたと推定されます。
- また、事前放流未実施の場合も同様に、氾濫開始相当水位を超過していたものと推定されます。



【国土強靭化対策による効果】

- 滝ダム下流の長内川では、国土強靭化予算を活用し、河積断面が不足する新街橋周辺において河道に堆積した土砂を撤去する河道掘削を行っています。
- 今回の台風第５号に伴う豪雨により生じた洪水では、滝ダムの事前放流及び洪水調節による下流河道の水位低下と併せ、未然対策として、河道掘削による河積断面の確保により、水位低下に効果を発揮しました。

トピックス　令和6年度における防災の取り組み

青森県

令和6年度における出水等の防災体制について

1.岩木川総合水防演習

毎年行われている総合水防演習が岩木川で行われ、青森県も参加しました。演習では地元消防団による洪水対応訓練のほか、町の自主防災会による避難訓練などを実施し、水防活動のPR・水防意識の啓発が図られました。



洪水対応訓練状況

2.重要水防箇所の合同巡視

青森県では、管内の重要水防箇所の周知・徹底を図ることを目的に、各対象河川における関係水防団、水防管理団体及び河川管理工事受注者と合同で巡視を行っています。今年度においても出水期前に各管内において実施しました。

3.水防･災害対策備蓄資材の拡充

各管内事務所では毎年水防・災害対策資材備蓄品の数量確認及び拡充を行うことで、防災体制に備えています。今年度は水中ポンプの追加配備や、制作済みの大型土のうを用意するなどしています。



合同巡視（現場確認）

4.市町村への助言

8月11日台風５号では、気象庁から線状降水帯による大雨の半日程度前からの呼びかけが行われるなど、本県においても甚大な被害をもたらす恐れが示されていました。

こうした状況を踏まえ、防災部局と連携し、市町村と危機感を共有するとともに、気象台とも連携し、WEB会議による市町村との常時オンライン体制を構築しました。

また本県では11日夜から12日午前中にかけて、大雨災害発生の危険度が急激に高まる恐れがあったことから、このことについて、早期に住民に呼びかけるとともに、明るいうちに避難所開設、高齢者等避難の早期発令を促す必要性があるとの認識のもと、各出先機関の長から市町村長に対してホットラインを実施しました。

幸い、危惧された大雨被害は生じなかったものの、予測を踏まえた防災体制の構築を再確認しました。

5.今年度における防災体制実績

今年度における防災体制の回数は８回（地震、津波対応含む）で、このうち出水等における体制は７回でした。過去５年間の数値と見比べると、全体の件数自体は平均的ではありますが、出水等への防災体制のみで比較すると、過去5年間のなかでは一番多いという結果でした。

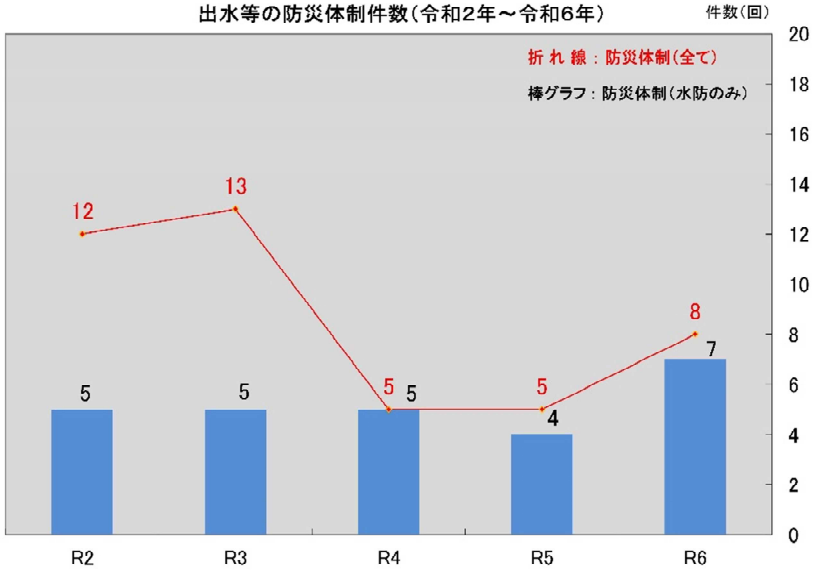


図1.過去五年間における、防災体制件数

6.最後に

今年度における、本県の公共施設災害の発生件数は０件（12/1現在）で、過去にさかのぼると昭和35年以来でした。災害が無いことで、若手が災害実務の経験を積むことが今年はできませんでしたが、次年度以降の実務対応に影響が生じないよう、研修や0JT等のノウハウや技術の向上、継承を図っていきます。

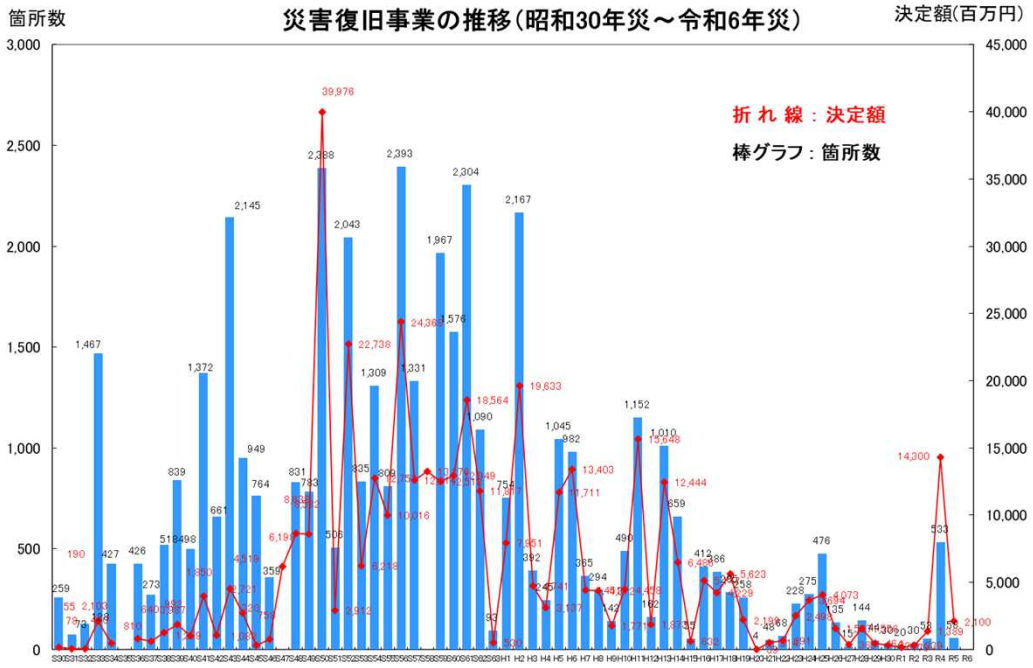


図2.災害復旧事業の推移（昭和30年災～令和6年災）

トピックス

宮城県　洪水予警報等作成システムの習熟訓練

1.概要

当県では、防災体制が脆弱となりやすい年度初めを中心に、洪水予報河川における洪水予警報の適切な発表を目的とし、共同発表者である仙台管区気象台と洪水予警報等作成システムの習熟訓練を実施しています。

訓練は、事前に準備したシナリオに基づき、氾濫注意情報発表から解除までの一連の予報文を仙台管区気象台と連絡交換を行い、各予警報文を作成するものです。

この訓練により、令和6年7月26日の大雨時に一級河川北上川水系迫川において、氾濫注意情報等の洪水予報文の適切な発表に繋がりました。

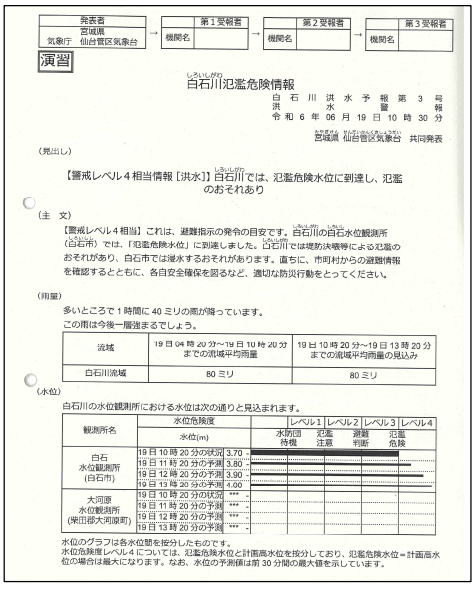
2.訓練内容

実施日	実施場所	対象河川	対象予報文
令和6年4月24日	仙台管区気象台	二級河川 七北田川水系 七北田川	氾濫注意情報、氾濫警戒情報、氾濫危険情報、氾濫発生情報、氾濫警戒情報(引下げ)、氾濫注意情報(警戒情報解除)、氾濫注意情報解除
令和6年5月14日 (洪水対応演習)	宮城県庁	二級河川 七北田川水系 七北田川	氾濫注意情報、氾濫警戒情報、氾濫危険情報、氾濫発生情報、氾濫警戒情報(引下げ)、氾濫注意情報(警戒情報解除)、氾濫注意情報解除
令和6年6月11日	宮城県庁	一級河川 阿武隈川水系 白石川	氾濫注意情報、氾濫警戒情報、氾濫危険情報、氾濫発生情報、氾濫警戒情報(引下げ)、氾濫注意情報(警戒情報解除)、氾濫注意情報解除
令和6年6月19日	宮城県庁	一級河川 阿武隈川水系 白石川	氾濫注意情報、氾濫警戒情報、氾濫危険情報、氾濫発生情報、氾濫警戒情報(引下げ)、氾濫注意情報(警戒情報解除)、氾濫注意情報解除

3.実施状況



状況写真



演習

白石川氾濫危険情報

白石川洪水予報第3号
洪水警報
令和6年06月19日10時30分

宮城県 仙台管区気象台 共同発表

(見出し)

【警戒レベル4相当情報[洪水]】白石川では、氾濫危険水位に到達し、氾濫のおそれあり

(主文)

【警戒レベル4相当】これは、避難指示の発令の目安です。白石川の白石水位観測所(白石市)では、「氾濫危険水位」に到達しました。白石川では堤防決壊等による氾濫のおそれがあり、白石市では浸水するおそれがあります。直ちに、市町村からの避難情報を確認するとともに、各自安全確保を図るなど、適切な防災行動をとってください。

(雨量)

多いところで1時間に40ミリの雨が降っています。
この雨は今後一層強まるでしょう。

流域	19日04時20分～19日10時20分までの流域平均雨量	19日10時20分～19日13時20分までの流域平均雨量の見込み
白石川流域	80ミリ	80ミリ

(水位)

白石川の水位観測所における水位は次の通りと見込まれます。

観測所名	水位危険度 水位(m)		レベル1 水防団待機	レベル2 氾濫注意	レベル3 避難判断	レベル4 氾濫危険
白石水位観測所(白石市)	19日10時20分の状況	3.70				
	19日11時20分の予測	3.80				
	19日12時20分の予測	3.90				
	19日13時20分の予測	4.00				
大河原水位観測所(柴田郡大河原町)	19日10時20分の状況	***	-			
	19日11時20分の予測	***	-			
	19日12時20分の予測	***	-			
	19日13時20分の予測	***	-			

水位のグラフは各水位盤を按分したものです。
水位危険度レベル4については、氾濫危険水位と計画高水位を按分しており、氾濫危険水位＝計画高水位の場合は最大になります。なお、水位の予測値は前30分間の最大値を示しています。

作成した予報文

トピックス

福島県

福島県水防訓練6年ぶりの開催及び土砂災害防災訓練について

令和６年６月９日、県主催の令和6年度福島県水防訓練を南相馬市鹿島区江垂地内の真野川河川敷で開催しました。

当訓練は、水防活動に必要な知識と水防作業の実地指導、情報の伝達等により、出水期を前に市町村や消防団の更なる水防体制の充実強化を図ることを目的とし、昭和２６年より実施しております。平成30年度以降、新型コロナウイルス感染拡大の影響で中止を余儀なくされてきましたが、６年ぶりの開催となる今年は、県関係者をはじめとして、市町村、地元消防団、福島県建設業協会等の関係者のほか、来賓等を含め、約400名が参加し、水防工法訓練、ヘリコプターによる人命救助演習を行いました。水防関係機関等が連携を図ることで、実践的な訓練となりました。福島県では、今後も県民の安心安全のために防災意識の更なる向上を目指します。

実施した主な演習
- 水防工法（木流し工、シート張り工、積み土のう工、月の輪工、大型土のう工）
- 人命救助演習



開会式の様子



水防工法訓練（シート張り工）



ヘリコプターによる人命救助演習

また、近年、集中豪雨の頻発により甚大な被害が発生し、多くの人的・物的被害が発生していることを踏まえ、本県では、国・県・市町村との連携を確認するとともに、土砂災害を想定した実践的な情報伝達訓練を毎年実施しております。

今年は、大雨・洪水警報、土砂災害警戒情報、土砂災害発生を想定し、今年度から新たに運用開始された県危機管理課の「福島県総合防災情報システム」と国土交通省砂防部の「土砂災害管理システム」を使用し、情報伝達訓練を行いました。

土砂災害防災訓練
日　　時：令和６年６月４日（火）
参加者：福島地方気象台、市町村（午前：１７市町村、午後：１０市町村）、県災害対策課、県建設事務所、県土木事務所
概　　要：関係機関と連携し、大雨・洪水警報、土砂災害警戒情報、土砂災害発生を想定した情報伝達訓練

トピックス　仙台市　水災害に備えた対応について

1.本市における近年の洪水被害状況

気候変動の影響により、台風のみならず前線に起因した豪雨災害が毎年のように発生していることから、日ごろからの備えは大変重要です。

本市におきましては幸い、近年、洪水被害が発生しておりませんが、直近では令和元年東日本台風により大きな被害を受けています。

令和元年の災害は、計画の治水安全度を上回る超過降雨によるものではありましたが、日ごろからの河川巡視や点検において、河川の不具合を適切に把握し、手当を行っていれば護岸崩落等の災害を防ぐことができたのではと考えられる被災事例もあったことから、事前防災の取組みの大切さを再認識しているところです。



令和元年東日本台風による被災状況
〔準用河川赤坂川〕

2.計画の位置づけ

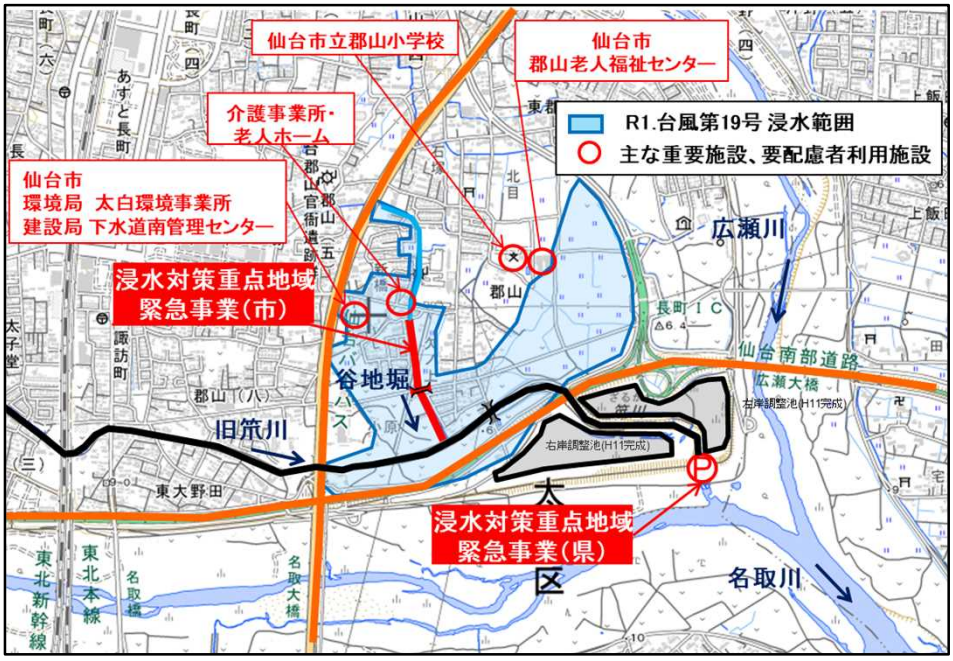
本市では、令和６年度から令和８年度を計画期間とする「仙台市実施計画」において、防災・減災関連プロジェクトの一環として、主要な河川の重点整備や河道内の土砂等の計画的な撤去等、防災・減災の取組（総合的な浸水対策事業）を進めることとしています。

3.事前防災の取組み

本市における事前防災に向けた取組みは、河川改修により治水安全度を向上するものと、長寿命化・保全計画に基づく維持・補修によるものとに区分していますが、以下にその取組み事例を紹介します。

〔1〕浸水対策重点地域緊急事業

平成27年の関東東北豪雨や令和元年東日本台風で被害を受けました準用河川谷地堀につきまして、令和3年2月に浸水対策重点地域緊急事業に位置付け、現在、令和3～7年度を事業期間とした河川改修事業を推進しているところです。



浸水対策重点地域緊急事業計画図

〔2〕長寿命化・保全計画に基づく維持補修

本市では、一級、二級、準用や普通河川のうち地下河川等の重要構造・施設を有する河川を対象として、長寿命化・保全計画を策定しています。計画においては、構造物の変状に応じた評価を実施し、改修の要否や優先度を決定しているほか、河道内土砂の堆積状況を把握したうえで、計画的な浚渫を行っています。加えて、毎年度実施する河川巡視・点検において構造の不具合を確認した際は、速やかに手当をする等、可能な限りリスクの高い箇所を放置しない対応を進めています。



完成区間状況



浸水対策重点地域緊急事業〔準用河川谷地堀〕



一級河川における護岸整備事例



準用河川における護岸基礎改修事例

4.排水ポンプ車の緊急的対応

令和５年９月に集中的な大雨が降ったことから、一部の河川で急激な水位上昇が発生しました。一級河川名取川の支流である旧笊川においては、氾濫注意水位に到達したことから、国・県・市の連携により、排水ポンプ車を出動いただきました。

時間経過に伴い河川水位が通常水位まで低下したため、幸い、排水ポンプ車の実稼働には至りませんでしたが、迅速かつ的確な臨機の対応につなげるため、出動訓練を含めた日ごろからの準備の大切さを改めて実感いたしました。



R5.9　大雨による排水ポンプ車出動状況
〔旧笊川→名取川水系名取川〕

5.おわりに

出水等の備えは、まずは計画的な施設整備を進め、被害が発生する前に予め完了させておくことが理想であり重要ですが、予算の制約等があるため、ソフト対策との組合せによりリスクの低減を図る必要があります。浸水被害が想定されているエリアから、非常時には速やかな避難行動が必要であることは、市民の方々にも浸透してきていると考えておりますが、継続的かつ計画的な施設整備を進める一方、適時・的確な避難誘導や臨機の対応の備え等に関して、関係部局と連携し、防災体制の構築に取組んでいきたいと考えております。合わせまして、国や県等関係各所と連携しながら、防災・減災の取組みを進めてまいりますので、引き続きのご指導、ご支援をお願いいたします。

トピックス　下水道事業について

秋田県

秋田県秋田臨海処理センター エネルギー供給拠点化事業について

1.事業概要

秋田臨海処理センター（以下「処理場」とします。）は、秋田市を含む県央部の３市４町１村の汚水を処理する、県内最大の流域下水道終末処理場です。

本事業は、処理場の敷地内に、消化ガス発電、風力発電、太陽光発電の３種類の再エネ発電設備を導入し、発電した電力を処理場で自家消費するとともに、処理場近隣に位置する県及び市の公共施設１０施設へ、新たに敷設する地中埋設の自営線により電力を供給する事業です。



設備名	事業主体	想定規模	備考
①消化ガス発電	県（DBO）	625kW	
②太陽光発電	〃	6,900kW	
③風力発電	〃	2,300kW	
④蓄電池、水素関連装置	〃	蓄電池：11,000kWh	
⑤太陽光発電	市（オンサイトPPA）	130kW	市単独事業
⑥自営線	県（DBO）	約5km	地中ケーブル式×２回線

図　再エネ地域マイクログリッドイメージ

2.国土交通省「下水道リノベーション計画」

「下水道リノベーション計画」は、将来の持続的な下水道事業の運営に向けて下水道が有する資源やエネルギーポテンシャルを活かし、下水道施設を地域課題解決の拠点として刷新する取組を推進するための登録制度です。この制度の創設が処理場を地域のエネルギー供給拠点にするという具体的なビジョンを描く契機となり、エネルギー供給拠点化を含む秋田県の「秋田臨海処理センターリノベーション計画」が令和元年度に登録されました。

また、令和４年度にはエネルギー供給拠点化を具体化した「秋田県流域下水道を核に資源と資産活用で実現する秋田の再エネ地域マイクログリッド」が、地域の脱炭素化と課題解決の実現を目指す環境省脱炭素先行地域に選定されました。

国土交通省様、環境省様のご支援により本事業は前進し、思い描いた構想が形となりつつあります。

3.事業実施効果

本事業の実施により、地域の脱炭素化及び電力コストの低減効果がもたらされます。具体的には、マイクログリッド内の全消費電力を脱炭素化することにより、約10,000t-CO2／年の削減となります。電力コストの低減については、従来の電気料金と比較し約２割の低減となります。また、消化ガス発電の燃料となる消化ガスをＤＢＯ事業者に販売することで新たな収益が生まれます。人口減少が著しい秋田県においては、下水道事業の維持管理コスト低減が急務となっており、本事業の実施により下水道料金の負担軽減に貢献できると考えています。

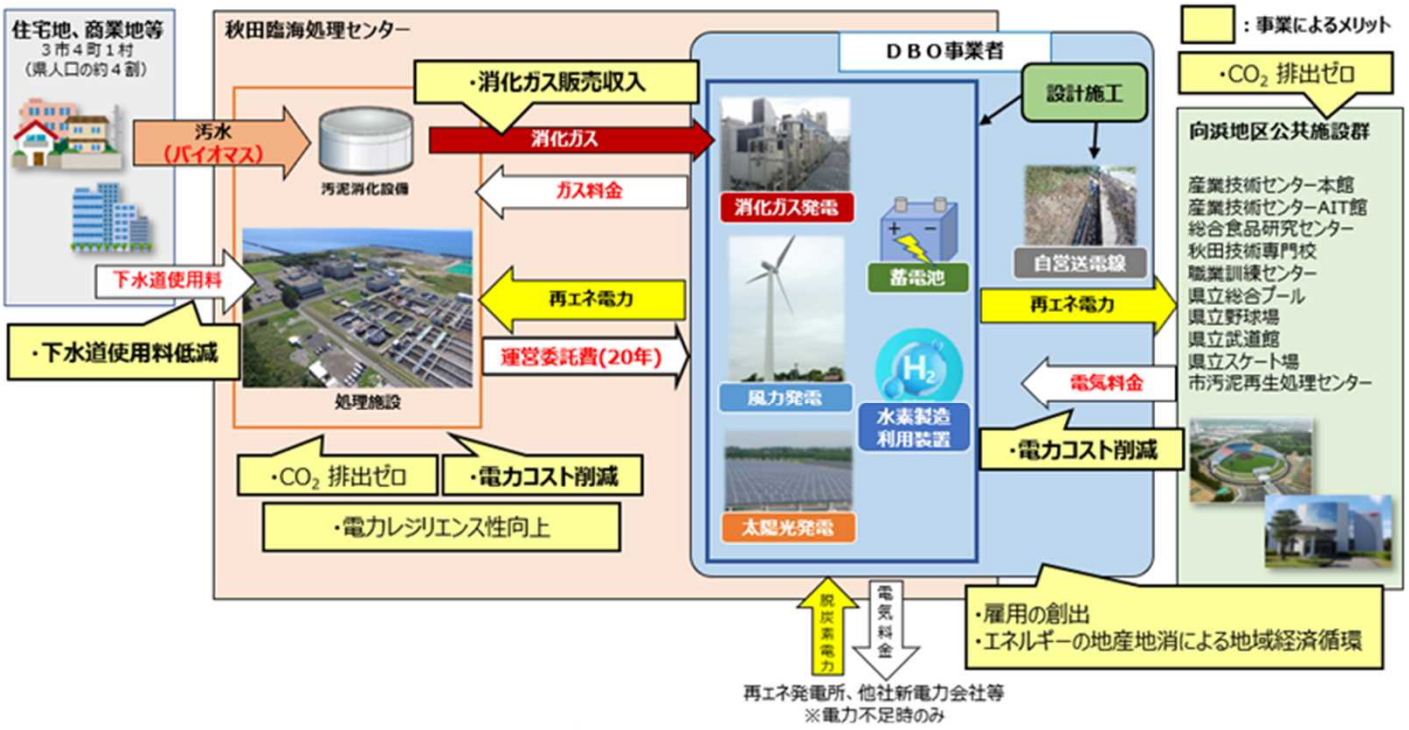


図　事業スキーム

4.現在の状況と今後の展望

本事業はＤＢＯ方式を採用し、総合評価落札方式一般競争入札により日本工営エナジーソリューションズ(株)を代表企業とするグループが落札、現在は詳細設計が進められています。令和７年度から現地工事が本格的に動き出し、令和８年度の夏以降には試運転によりマイクログリッド内のデータ収集を実施し、令和９年度から本運用開始を予定しています。

本事業の知見を生かして他の下水道施設や下水道施設以外のインフラへの横展開を図り、蓄積したノウハウを活かして、今後も脱炭素社会の実現と地域課題の解決に向け取り組んでまいります。



図　完成予想イメージ（秋田臨海処理センター）

トピックス　若手職員の紹介

青森県

◆目的を忘れずに



藤井　一磨
青森県　県土整備部　河川砂防課　河川・海岸グループ
令和3年入庁（総合土木）

私は、大雨による河川の氾濫被害から地域の方々の生活を守るため、河川管理施設における調査や計画を担当しています。
他官公庁と連携して業務を進めるにあたり、だれのための仕事か、目的を意識して日々の業務に臨んでいきたいと思います。

◆常に先を考え行動する



成田　悠輔
青森県　県土整備部　河川砂防課　砂防グループ
令和５年入庁（総合土木）

私は、急傾斜、地すべりについて担当しており、主な業務は以下のとおりです。
県内の地すべり事業や急傾斜事業の事業計画や事業費を取りまとめています。また土砂災害防止月間、雪崩防災週間に合わせ、新聞やラジオ、防災教室による広報活動や県庁HPの更新を行っています。
今後も上司、先輩方を目標に日々仕事に励んでまいります。

◆陰から県民の安全を支える



成田　朝登
青森県　県土整備部　河川砂防課　ダムグループ
令和6年入庁（総合土木）

私は、県内にあるダムの管理を担当しております。
ダムには、発電、農業用水、治水、河川流量の確保など、様々な役割があります。そして、なんといっても規模が大きく、責任感も感じます。
大雨の際の対応など、大変なこともありますが、重大なことに携わっているということを胸に刻みながら、陰から県民の皆さんの安全を支えていきたいと思います。

岩手県

◆明るく、楽しく、情熱をもって！



浅沼　信也
岩手県 県土整備部 河川課 流域治水担当
令和5年度入庁

私は現在、水防法に基づく洪水浸水想定区域の指定・公表に関することや水防警報・水位周知河川の指定に係る業務を担当しており、県民の方々に水害のリスク情報をお伝えし迅速な避難行動につなげていただくよう、日々作業を進めております。気象台や市町村の水防担当の方々と調整して、洪水時のタイムラインを作成し、実際に運用するなど水防対応を行う上で非常に重要な業務であると感じております。
県民の方々が安全・安心な生活を送れるよう、明るく楽しく情熱をもって業務に努めてまいります。

若手職員の紹介

宮城県

◆上司先輩方のような職員に

門目　洋介
宮城県　土木部　河川課
平成27年度入庁



私は、平成27年度に入庁し、これまで河川砂防、道路、漁港関係の業務に携わり、令和6年度から土木部河川課ダム整備班に配属となり、新規建設中の川内沢ダム建設事業や、県管理ダムにおける災害復旧事業、ダムツーリズム関係の業務を担当しております。
ダムに関する業務は初めてであり、これまでとは比にならない大規模な工事や、ダムツーリズムに関連するイベントの調整等、日々の業務に四苦八苦しております。
これまでは若手として、上司先輩方の指導や周りの方々のサポートにより、無我夢中で業務を行ってこれましたが、気付けば宮城県職員として10年目となり、後輩に教えなくてはならない立場となったため、上司先輩方のように指導ができるよう意識しながら日々の業務に励んで参りたいと思います。

秋田県

◆～私の仕事～

技師　松村　昂英（まつむら　こうえい）
秋田県由利地域振興局建設部
企画・建設課　河川・道路建設チーム

私は地元の「由利本荘市」と「にかほ市」を所管する由利地域振興局で河川や砂防、道路の改良事業と災害復旧業務に携わっており、調査設計や工事監督のほか建設産業の担い手確保にも取り組んでいます。担当業務は多種多様で困難な場面に直面することもありますが、日々やりがいを感じながら過ごしています。
忙しい毎日の中で楽しみにしているのは、地域の飲食店で食べるお昼ご飯です。管内には美味しいラーメン店や食堂が沢山あり、食べる度に幸せな気持ちになります。これからも栄養をしっかり摂って、諸先輩方のアドバイスを大事にしながら、一人前の技術者になれるよう明るく楽しく頑張っていきます！！



ディスクワークの様子





段階確認の様子

若手職員の紹介

山形県

◆ 県民の安全な生活のため

佐藤 恵太
山形県 県土整備部 河川課（河川管理担当）



私は河川管理を担当しており、大雨や洪水等の緊急時に備え水防計画書の作成や、川の雨量・水位のデータを県ホームページへ公表、県内各所を結ぶ無線設備の点検保守などを行い、河川の安全と緊急時の情報発信に努めており、人命保護を最優先という思いで日々の業務に向かっています。

また、海岸施設の維持管理も担当しており、老朽化した海岸施設のメンテナンスや、侵食を受けた海岸への対策を行っています。県民の安全な生活のための業務ですので、やりがいを感じています。

◆ 再度災害発生を防ぐ

井上 大志
山形県 県土整備部 河川課 流域治水推進室（河川計画担当）



河川課では河川計画を担当しており、現在は中小河川の洪水浸水想定区域図作成や海岸保全基本計画変更等の業務を行っています。

近年、気候変動の影響から過去にない規模の豪雨災害が多発している中で、本県においても今年度の７月豪雨では酒田市内の荒瀬川流域で24時間雨量が400㎜を超える降雨を記録しました。このような豪雨からの再度災害発生を防ぐため、流域治水を考えながら様々な方法を組み合わせた計画を検討しています。

◆ ダムの整備を通して

石毛 將太
山形県 県土整備部 河川課（ダム担当）



新規採用職員として河川課のダム担当に配属となり、現在は県土整備部所管の13基のダムについて整備・管理に携わっています。主な業務の一つとして、県ホームページの作成や更新を通して、ダムの役割について広く周知することを担当しております。まだまだ至らない点ばかりで、ご迷惑をおかけする日々ではありますが、広報担当としてダムを身近な存在に感じていただけるよう日々の業務に励んでおります。今後も、治水事業を通して県民の皆様の安全と安心に貢献できるよう努力いたします。

若手職員の紹介

福島県

◆ 信頼される職員を目指す

石井　文雅
福島県　県南建設事務所　河川砂防課
令和６年度入庁



県南建設事務所は福島県中通りの南部に位置しており、４つの水系（阿武隈川、久慈川、那珂川、鮫川）の源流を有する自然豊かな地域です。
私は河川砂防課に所属し主に急傾斜地において、法面崩壊を防止するための事業を担当しています。入庁してから約半年経ちましたが、業務内容は幅広く、技術的な知識や社会人としての能力も未熟で目まぐるしい日々ですが、諸先輩方に助けていただきながら働いています。

◆ 治水対策と地元が望むまちづくりの両立を目指して

柳沼宏太朗
福島県　いわき建設事務所　河川砂防課
令和５年度入庁



私は、入庁して１年目の令和５年９月に、線状降水帯による豪雨を経験しました。いわき建設事務所では、いわき市内で発生した、甚大な浸水被害に対する課題解決に向けて、浸水対策検討会を設置し、私もチームの一員として、検討会や地元説明会等に参加していく中で、地域住民に寄り添うことの大切さを深く実感することができました。これからも地域住民の方々が安心して暮らせるまちづくりを目指し、日々仕事をしていきたいと思います。

◆ 県民の安全と安心な暮らしを守るために

小森　悠宇
福島県　南会津建設事務所　河川砂防課
令和６年度入庁（土木）





南会津建設事務所は福島県の南西部にある尾瀬に最も近い建設事務所です。山間部にあるため勾配の急な河川が多い場所で私は河川砂防課に所属しており、河川の整備事業と、土砂災害を防止する砂防事業を行っています。
私は、現在、施設設計や工事の監督業務を担当しています。土砂災害警戒標識の設置業務では、住民の皆様と対話しながら業務を進めるなど、地域が求めるハード・ソフト対策を勉強しています。今後も、自己研鑽に励み、効果的な防災・減災対策を推進し、地域の皆様が安全・安心な暮らしを営めるよう、日々の業務に取り組んでまいります。

若手職員の紹介

仙台市

◆河川行政に携わり学んだこと

髙橋　菜摘
仙台市　建設局　下水道建設部　河川課



私は現在、河川の護岸工事や除草業務、予算管理を担当しています。河川工事は設計通りの施工となっているか、工程に無駄はないか確認するだけではなく、大雨等の気象の影響を受けやすいため安全管理も非常に大切なのだと学びました。

市民の皆様とお話しする中で、周辺の自然環境や、大雨による浸水被害について高い関心を持っていらっしゃる方が多いことに気付かされました。改めて、河川の維持管理は大切な業務であると認識しています。今後も、地域の安全を確保できるよう努めていきます。



【地域河川課　出向職員だより】

下水道係長　寺田＿下水道行政について

福島県郡山市から地域河川課に出向しております、下水道係長　寺田（てらだ）と申します。
平素より下水道行政にご理解、ご協力を賜り、改めて御礼申し上げます。
さて、下水道については近年、地方の人口減少や豪雨災害の増加、下水道に携わる自治体職員数の削減など厳しい状況にある一方で、ウォーターPPPの推進や下水汚泥資源の肥料利用、上下水道耐震化計画の策定など、大きな転換期の最中でもあります。
我々東北地方整備局としても直轄事業こそありませんが、皆様に最も近い窓口として、持続可能な下水道の実現に向け少しでもお力になれるよう、日々邁進しているところです。
何かございましたらご遠慮なく相談いただければと思います。
今年度も残すところ３か月となりましたが、ラストスパートで頑張ってまいりますので、改めてどうぞよろしくお願いいたします。



広瀬川第3雨水幹線工事（仙台市）



国庫補助事業等完了検査(岩手県)

編集後記

昨年は、豪雨等により甚大な災害が発生した年でありました。
今回の「個性の大地」は、災害対応を行いながら、東北各県、仙台市からのトピックスとして令和６年７月出水等の被害・復興状況や令和６年度における防災体制等についてご紹介頂きました。
第６４号の発行にあたり、お忙しい中、編集にご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。
業務多忙な状況が継続しておりますので、体調管理には十分にお気をつけ下さい。
今年も本誌を通じて、東北各県、仙台市と東北地方整備局の情報交換・連携を図り、事業推進に寄与していきたいと思います。
引き続きご愛顧の程をよろしくお願いいたします。

バックナンバーはこちら

https://www.thr.mlit.go.jp/bumon/b00037/k00290/river-hp/kasen/forefront/kosei/index.html